

旅人を見守った 命の道しるべ

後藤将希くん(蘇陽小4年)が作文で最優秀賞



1月下旬から2月上旬にかけて行われた熊本県中学新人バレーボール大会。その大会に矢部中バレー部が出場。予選を順当に勝ち残り、迎えた2月5日の決勝リーグ。泗水中、龍田中、津奈木中を退け、堂々の優勝を果たしました。

- 監督 梶原正臣
- コーチ 荒木宗臣
- 選手 岡本勇悟、藤山敬大、本田拓摩、藤本悠登、岡崎元城、本山崎将仁



九州大会で意気込む矢部中バレー部

この結果により、県の代表として望んだ3月26日の九州大会では、福岡県1位のチーム相手に善戦むなしく敗れ、決勝トーナメント1回戦敗退という結果でした。

しかし、4月3日の熊本県中学生選抜バレーボール大会で優勝しており、今後さらなる活躍が期待されます。

矢部中バレー部の快進撃!



将希くんが見つけた道しるべ。中央は「千三百番」と刻まれています。(東竹原)

「道しるべ」を学習し、身近に残るその偉大な功績を目の当たりにして感動したことを書いた作文が高く評価されました。

きっかけは、学校での道徳の時間、高森町出身の甲斐有雄翁が建てた道しるべについて学習したことでした。この学習後、クラスメイトや友だちが、あちこちでその道しるべを見つけて写真を撮ってきたのです。次第に自分でも見つけたいと思い始めた将希くん。思いはすぐにはかなえられず。それは普段の生活の近くにあります。通学途中のふれあいバスから外を眺めていると、ブロッコリー畑に埋まった道しるべを発見。その近所のおばあちゃんに聞くと、「これは甲斐有雄という人が建てたとはい」とやさしく教えてくれました。

第5回光ものたり大賞「わたしのくまもと」ふれあい作文コンクール(NTT西日本主催)低学年部門で蘇陽小4年 後藤将希くん(高畑)の「道しるべ」が最優秀賞を受賞しました。学校で「甲斐有雄の道しるべ」を学習し、身近に残るその偉大な功績を目の当たりにして感動したことを書いた作文が高く評価されました。

文字が刻んでありました。甲斐有雄翁は1829年に高森町に生まれました。行き交う旅人が道に迷わないようにとその生涯にわたって道しるべを建立。その道しるべは、阿蘇地方をはじめ、上益城地方、熊本市、宮崎県高千穂町、五ヶ瀬町、大分県に至るまで、その数2000基にのぼると言われています。山奥や山頂にまで道しるべが残っています。山都町ではあまり知られていませんが、その後、県近代文化功労者として顕彰されたほどの人物です。蘇陽小フエスタで、将希くんをはじめとする当時の3年生が発表したのを機に、保護者や地域の方々興味を持って探はじめたのだとか。

身近で次々と発見される先人の偉業に、深く感動した将希くん。「自分のひいひいじいちゃんもこの道しるべに助けられたのかもしれない。これは命の道しるべだっただんだと思います。」

みなさんの近くに、今でも静かに建っているかもしれません。

どぶろく歌瀬 全国どぶろくコンテストで 優秀賞



アルコール度数は10~11度未満。瓶詰め後も発酵するため味の変化も楽しめます。



今回話しを伺った販売担当の公治さん

歌瀬キャンプの「どぶろく歌瀬」が、第6回全国どぶろく研究大会のどぶろくコンテスト濃厚(濃厚でまろやかな味)の部門で、優秀賞に輝きました。「どぶろく歌瀬」は今回2回目の出展。昨年の入賞から優秀賞というさらなる高評価を得ました。

全国どぶろく研究大会とは、どぶろく特区の各地の状況や、活用の方

法などについて意見情報交換を行い、地域の活性化を図るためにH18年から毎年開催されている大会です。2月11日に岩手県遠野市で開かれたコンテストには、特区でのどぶろく製作が盛んな東北地方や近畿地方を入れ始めた四国地方など全国から77点の出展がありました。

「レベルの高い本場東北地方のどぶろくに割って入った今回の受賞は素直にうれしかった」と歌瀬キャンプ場の興格公治さんは受賞の感想を語ってくれました。公治さんは主に販売担当、製造を担当する母の妙子さんとともに「どぶろく歌瀬」を支えます。



製造者の興格妙子さん

「どぶろく歌瀬」は、キャンプ場の冬場の集客を目的としてH19年10月に酒類製造免許を取得して製造を開始。自家製のあきげしき「歌瀬米」と地元のおいしい水を使ってつくられます。火入れをしないため、瓶詰めしたあとも発酵が続く、まさに

「4月末に最後の仕込みを行う予定ですが、一度に数十本しか出来ないので、お問い合わせの際はかならずお問い合わせください。」ご予約はお早めに。

高千穂町でも「どぶろく特区」申請の動きがあるとか。地域の特産物としての可能性が広がっているこのどぶろく。ぜひ一度その味を体験してください。

熊本県社会福祉 功労者表彰



片岡菊代さん(左)と飯屋直子さん(右)

社会福祉の向上に著しい功績のあった個人や団体を表彰する、県の社会福祉功労者表彰。表彰されたのは、飯屋直子さんと片岡菊代さん。

飯屋さんは、民生児童委員として、22年11月にその職を退かれるまで約17年にも亘って、地域福祉の向上と子どもたちの健全育成に尽力されました。

片岡さんは、特別養護老人ホーム蘇望苑設立当初からの介護職員で、利用者の住み慣れた自宅や地域での生活習慣をかえることなく介護することをモットーとしてこられました。

「表彰は支えてくれたまわりの方々のおかげです。」表彰伝達式でのお二人の言葉には地域福祉を支え続けた同じ思いがありました。

問い合わせ先
歌瀬キャンプ場
83-0554